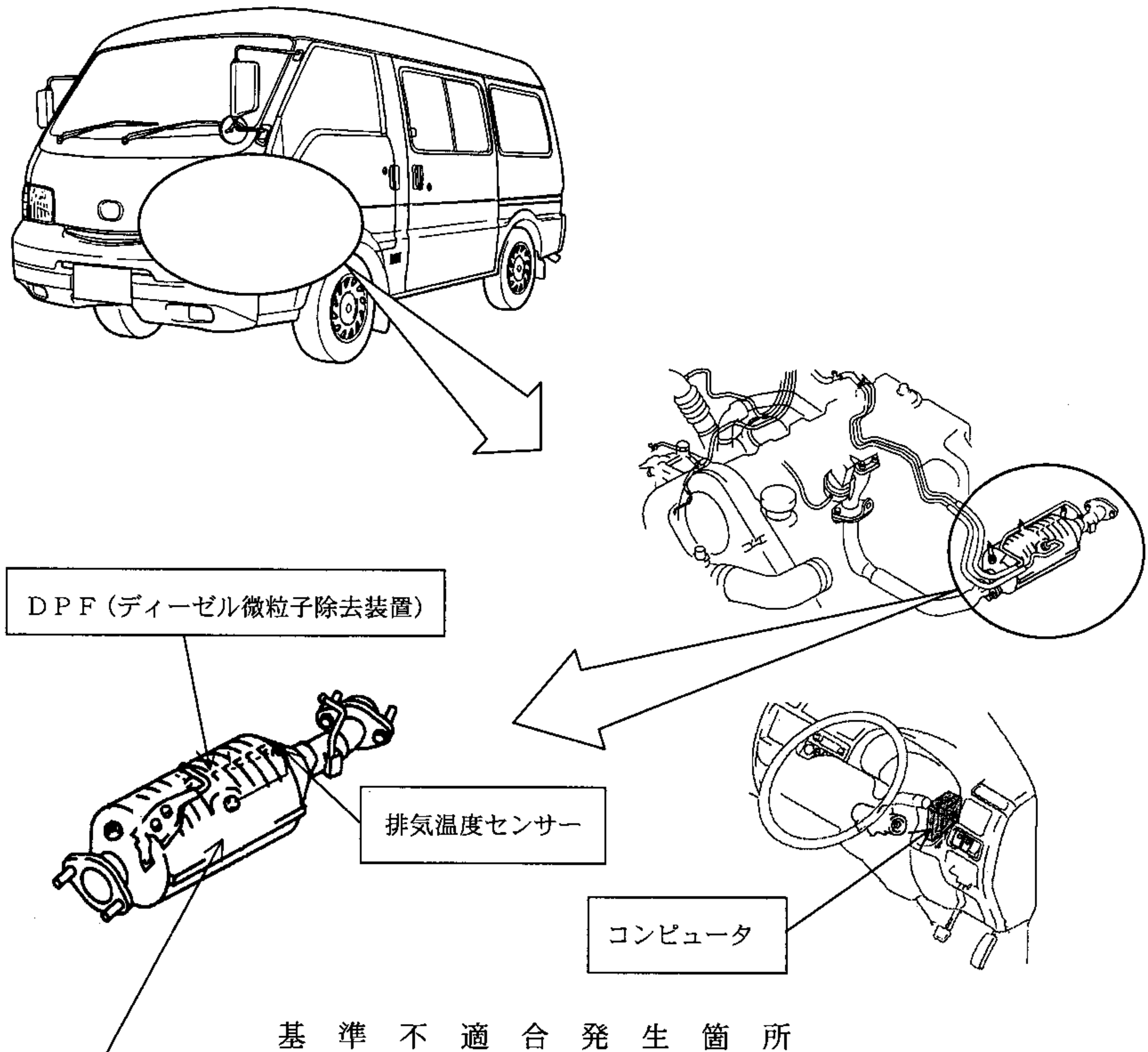


改善箇所説明図



- ①DPF (ディーゼル微粒子除去装置) において、DPF内に捕集されたPM (粒子状物質) の自動除去機能を制御するコンピュータに誤ったプログラムを組み込んだため、手動操作によるPMの除去が必要であるにもかかわらず、自動除去機能が作動することがある。そのため、DPFの温度が異常に上昇し、排気温度センサーが損傷してエンジン警告灯が点灯し、最悪の場合、DPFが損傷してPMの排出量が基準値を超えるおそれがある。
- ②DPFにおいて、DPF内に捕集されたPMの自動除去機能を制御するコンピュータのプログラムが不適切なため、アクセルのオン・オフの操作を頻繁に行いながら走行すると、自動除去機能が作動しない場合があり、DPF内にPMが堆積することがある。そのため、そのまま使用を続けると、DPF表示灯が点灯し、頻繁に手動操作によるPMの除去が必要となるおそれがある。

改善の内容

全車両、当該コンピュータを対策品と交換するとともに、DPF及び排気温度センサーを点検し、損傷しているものは新品と交換する。

注) は交換部品を示す。

識別：助手席足元付近(左側)にあるダイアグノシス・コネクタ No.1 のカバー裏に白色ペイントを塗布する。